

検査項目		解説【2】	
肝機能	総蛋白	血清中に含まれる蛋白です。これらの検査を組み合わせると全身栄養状態・免疫疾患・骨髄疾患・肝疾患などをみま	
	アルブミン		
	ZTT	血清蛋白の質的異常を反映する検査で、肝臓・腎臓・骨髄疾患・膠原病・その他慢性疾患時に変動します。	
	AST (GOT)	ASTやALTは炎症などによって体の細胞が壊れると血中に放出するため、増え方で障害の程度がわかります。ASTは肝臓だけでなく筋肉・赤血球にも含まれ、ALTは主に肝臓に含まれている酵素です。	
	ALT (GPT)		
	γ-GTP	胆汁の流れ(肝～胆道～腸)に障害を生じると増加してきます。また、アルコールの多飲により上昇します。	
	ALP	肝臓・胆道・骨・骨盤・小腸にある酵素で、これらの障害により上昇します。	
	LDH	体内の多くの細胞に存在する酵素で、細胞が壊れると血中に放出し、壊れる細胞が多いほど上昇します。	
	コリンエステラーゼ	肝臓で合成され血中を循環する酵素で、肝臓機能の指標となります。脂肪肝で上昇することがあります。	
	LAP	肝臓などさまざまな組織に存在する酵素(蛋白分解酵素)で、肝胆道系組織に障害があると上昇します。	
総ビリルビン	黄疸(おうだん)の程度を測定します。赤血球が壊れて出てきたヘモグロビンが分解されてできる黄色い色素で、肝臓や胆道などに障害があると上昇します。		
膵	アミラーゼ	膵臓や唾液腺で作られる酵素です。主として膵臓の炎症・膵管の異常などの膵疾患の診断に重要です。	
血液一般	白血球数	病原微生物などから体を防御するための免疫機構の主役となる血球です。喫煙や炎症、白血病など様々な病気の影響を受けて変動するため、他の所見と総合して判断します。	
	赤血球数	血液中の赤血球が不足すると酸素を運ぶ能力が落ち、貧血になります。	
	ヘモグロビン	ヘモグロビン(血色素)は赤血球中の主成分で酸素の運搬を担うタンパク質のです。ヘマトクリットは血液中に占める赤血球の全容積の割合です。これらが基準値より多い場合は多血症、少ない場合は貧血と診断します。	
	ヘマトクリット		
	血小板数	止血のために働く血球で多すぎても少なすぎても出血しやすくなります。肝機能障害で減少することがあります。	
	MCV	赤血球の体積を表します。アルコール・喫煙の影響で上昇する場合があります。	
	MCH	赤血球に含まれる血色素量を表します。貧血のときなど低値を示します。	
	MCHC	赤血球体積に対する血色素量の割合を表します。	
	白血球	好塩基球	血液中の悪い物を減らす働きがあります。
		好酸球	アレルギー反応などで値が上昇する場合があります。
好中球		体の中に入ってきた細菌を食べる働きをします。	
リンパ球		免疫の働きに重要なかわりを持ちます。	
単球		結核や細菌に感染すると増加することがあります。	
電解質	Na (ナトリウム)	体内の水分補助や浸透圧調整を行います。血液検査では体液水分量の平衡状態を検査します。	
	K (カリウム)	神経の興奮や心筋の働きをサポートする電解質成分です。	
	Cl (クロール)	ナトリウムとの濃度のバランスが重要です。	
	P (リン)	カルシウムとリンは密接な関連があり、骨ミネラルの重要な構成成分です。代謝異常で値が変動します。	
	Ca (カルシウム)		
炎症免疫	CRP	急性炎症あるいは組織崩壊性病変で増加する蛋白の一つです。炎症性病巣の存在や病変の活動性、障害程度を鋭敏に反映する代表的な炎症マーカーです。	
	RF	膠原病のなかでも特に関節リウマチの診断の手がかりになります。リウマチ症状がなくても上昇する場合があります。	
	梅毒TPHA	梅毒感染の有無を調べる検査ですが、梅毒以外の原因でも陽性を示す場合があります。	
肝炎	HBs抗原	急性肝炎・肝硬変・肝臓癌へと進展する慢性肝炎を引き起こすB型肝炎ウイルスに感染しているかを調べる検査です。	
	HCV抗体	C型肝炎は自覚症状なく慢性肝炎へ移行し、肝硬変・肝臓癌へと進展していくことがある為、定期的な検査が必要です。	
凝固	PT	PT(プロトロンビン時間)・APTT(活性化部分トロンボプラスチン時間)の双方を組み合わせると血液の凝固機能を調べます。	
	APTT		
甲状腺	F-T3	甲状腺機能を調べる検査です。病気の程度・治療効果を知る目安となります。	
	F-T4		
	TSH		
BNP	BNP(脳性ナトリウム利尿ペプチド)は心臓から分泌されるホルモンの一種で、心筋梗塞や心不全のような心臓に負担がかかった状態になると心臓から血液中に分泌されます。うっ血性の心不全・本態性高血圧症・心筋梗塞などの診断に有用です。		
ペプシノーゲン検査	血液中のペプシノーゲンを測定することによって、胃酸の分泌状況や胃粘膜の状態を予測します。		
ピロリ菌検査	血液中のピロリ菌抗体を調べます。陽性の場合は除菌をおすすめします。		